

兵庫県で過去に発生した主な地すべり

福知地区の地すべり

昭和 51 年 9 月 13 日に宍粟郡一宮町(現在の宍粟市)にて発生しました。台風 17 号による豪雨が誘因であると考えられています。滑落した削剥部が 6ha、崩積土砂の堆積部が 14ha におよぶ大規模な地すべりです。地すべり土塊は約 10 分間で 600m の距離を移動したと考えられ、崩壊型の地すべりに分類されます。この地すべりでは公共施設の流失、埋没や住宅被害があり、3 名の人命を奪うほどの大きな災害をもたらしました。地すべり地付近には断層が走り、地すべり頭部には断層により破碎された生野層群の凝灰岩が厚く分布していることが、素因の一つであると考えられています。



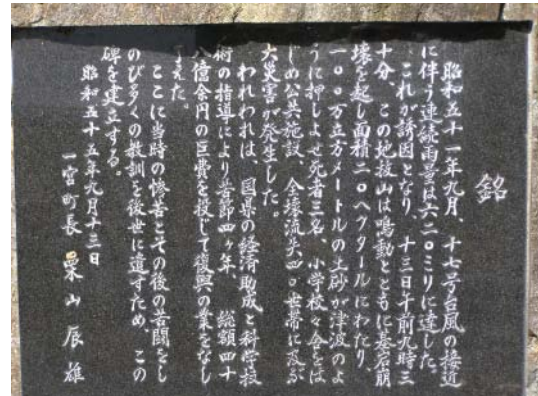
昭和 51 年 9 月 13 日災害直後の状況



災害から 20 年後の状況



福知地すべりの石碑



仁川百合野地区地すべり(地すべり資料館)

平成7年1月17日に発生した兵庫県南部地震に伴い、西宮市仁川百合野町にて大規模な地すべりが発生しました。地すべりの規模は幅約100m、長さ約100m、最大深15m、移動土塊は約10万 m^3 に達し、崩壊土砂は二級河川仁川を埋塞すると共に家屋13戸を倒壊させ、34名の人命を奪う甚大な災害をもたらしました。地すべりの発生した斜面は平均傾斜 20° の緩傾斜でしたが、緩い締まりの悪い盛土層が構成していたことが素因であり、地震動が誘因となったと考えられています。平成9年に復旧が完了しました。用いられた復旧工法は以下のとおりです(全体事業費:28億円)。

集水井工 4基 法枠工 10,300 m^2 集水ボーリング工 6,916m

井桁擁壁工 1,229 m^2 抑止杭工 142本 護岸工 918 m^2 等

この地すべりの詳細については「仁川百合野地区地すべり資料館」へ展示しています。



災害の状況



復旧後の状況(平成9年4月)



平成 16 年台風 23 号による降雨で発生した地すべり

兵庫県では平成 16 年 10 月の台風 23 号と前線の影響による総雨量(19～20日)は洲本で 372mm の降水量を記録したほか各地で記録的な大雨となり、県内各地で大きな災害をもたらしました。地すべりの被害もそのうちの一つです。



南あわじ市灘城方(2)地区
台風 23 号の降雨により発生した滑落崖



南あわじ市灘城方(2)地区
復旧後の状況

